

【トークライブ】新しい自分の発見 ～一枚の写真が何かを変える～

ゲスト:白石和子(4号表紙)、内海章友(7号表紙)、加藤勉(24号表紙)、川北誠(27号表紙)、
小松達也(30号表紙)、仲田亜由美(38号表紙)、澤田優美子(39号表紙)、新村朋子(41号表紙)、
小林絵理子(44号表紙)、市川左千子(46号表紙)
丹羽大輔(NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ『こころの元気+』編集)
司会:増川信浩(2号表紙)／福井里江

リカバリーフォーラム初日、定番企画となった「トークライブ」がおこなわれました。
今年、『こころの元気+』の表紙モデルの方、10人に来ていただきトークライブ。

①大変なこともあったけど、雑誌の表紙モデルをやってみたい！！何がそんなふうにしたのか？

②実際、撮影したらどうだったのか？

③そして、その後の周りの反響や自分の変化

について、トークライブ！

まずは、『こころの元気+』の当事者を表紙モデルにするんだ！となった経緯について、コンボの丹羽さんが熱く語り、それを受けて実際の表紙モデルの方たちが話をしていきました。

<応募した時の思い…>

「病気になる前より今の方が元気。今の笑顔を撮っておきたいと思った」「成功したこともそうでないことも一瞬一瞬が経験。糧になる。何でもやってみよう」「応募は少ないだろうと思って応募したら3年待ち！ようやく実現した」…

<撮影中…>

「笑えばなしでほんとに楽しかった」「病気の話題がほんとに出ない。病気の人としてじゃなく、自分を見てくれていると思った」「こんなふうに笑える自分がいたなんて！」「いろんな表情、いろんな笑顔があって、どの表情が一番いいと感じるかも、人によって違っていた」「自分はこういう人だって決めつける自分を、違う角度から見る感じがした」「同行した家族と記念撮影をしてもらえた」…

<その後の周りの反響や、自分の変化…>

「しばらく連絡を取っていなかった友人に送ったら、お前もがんばっているんだな、と言ってもらった」「いろんな人が見たよと声をかけてくれて、私は変わらなくてもそのまま人とつながることができるんだと思った」「撮ってもらった写真は、今でも私のお守り」「表紙に出たときにちょうど結婚。思いがけずそれを周りの人たちにお知らせした形になった」「コンボとのつながりでマンガの編集ができた」「今、前よりも元気かというところでもない部分もある。でもそれも含めて今の自分。リカバリーってそういうことだと思っている」「実は今、辛い状態。リカバリーってうれしいことだけじゃなくて辛いこともある。でも、前よりも自分で決めて、どうしたいかを周りに伝えている感覚がある」…

全国に発送されている雑誌の表紙を飾る、一枚の写真。そこに至るまでの物語と、その後の出来事。それぞれの人の、それぞれの大切。10人の人生に触れたトークライブでした。

《増川信浩 (WRAP ファシリテーター) 》